

August 27, 2019

【前日の為替概況】ドル円、米中通商協議への期待感から 106.41 円まで反発

26日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3営業日ぶりに反発。終値は106.12円と前営業日NY終値(105.39円)と比べて73銭程度のドル高水準だった。オセアニア市場では一時104.46円と2016年11月9日以来の安値を付けたものの、欧米市場ではショートカバーが優勢となり持ち直した。米中貿易摩擦を巡り協議再開への期待が再び浮上し、時間外のダウ先物が大幅に上昇。ナイト・セッションの日経平均先物も300円上げたため、投資家のリスク回避姿勢が後退し円売り・ドル買いが進んだ。米10年債利回りが1.54%台まで上昇したことも相場の支援材料となり、106.41円まで上値を伸ばした。下押しも105.92円付近にとどまり106.12円で引けた。

トランプ米大統領は、主要7カ国首脳会議(G7サミット)で記者団に対し、米中の貿易交渉担当者が電話で協議したことを明らかにし「中国との交渉を再開する。とても大きなことが起きるだろう。中国は米国との合意を強く望んでいる」と述べ、貿易協議の進展に期待を示した。劉鶴中国副首相は講演で米国との貿易戦争について「冷静な態度で問題を解決したい」と語り、米国に協議再開を呼びかけた。米中貿易戦争への過度の警戒感が和らいだため、現物のダウ平均は一時310ドル超上昇する場面があった。

7月米耐久財受注額(季節調整済みで半導体は除く)は前月比2.1%増となり、市場予想の前月比1.1%増を上回った。変動の大きい輸送関連を除いた受注額は前月比0.4%減で予想の前月比横ばいを下回った。

ユーロドルは反落。終値は1.1102ドルと前営業日NY終値(1.1144ドル)と比べて0.0042ドル程度のユーロ安水準。8月独Ifo企業景況感指数が94.3と予想の95.1を下回り、約7年ぶりの低水準を記録したことを受けて、ユーロ売り・ドル買いが優勢となり、5時過ぎに1.1094ドルと日通し安値を付けた。

ユーロ円は3日ぶりに反発。終値は117.83円と前営業日NY終値(117.49円)と比べて34銭程度のユーロ高水準。東京市場序盤に116.57円と2017年4月21日以来の安値を付けたものの、売り一巡後はドル円と同様に買い戻しが優勢となった。ドル円が日通し高値を付けたタイミングで118.20円まで上昇。

【本日の東京為替見通し】ドル円、第13回米中通商協議への思惑から底堅い展開か

本日の東京市場のドル円は、第13回米中閣僚級通商協議への期待感、思惑から底堅い展開が予想される。

23日のニューヨーク株式市場の開始前に、中国政府が対米報復関税第4弾(750億ドル・5-10%、9月1日・12月15日)を表明し、株式市場の終了後にトランプ米政権は、5%の対中関税率の引き上げを表明したことで、米中貿易戦争は激化した。対中制裁関税第1・2・3弾(2500億ドル)の税率は、10月1日から25%から30%に引き上げられ、対中制裁関税第4弾(3000億ドル・10%)も、税率が10%から15%へ引き上げられることになった。

26日のアジア・オセアニア市場では、リスク回避の円買いでドル円は104.46円まで下落し、円は全面高となり、米10年債利回りも1.44%台まで低下した。

しかし、劉鶴中国副首相が「我々は『冷静な』態度で協議や協力を推し進め、問題を解決する用意がある」と述べ、トランプ米大統領も「劉氏は取引成立を望んでいる。冷静な状態で取引したいと思っている。劉氏は『冷静な』という言葉を使った。私は彼に同意する」と述べ、関税率の引き上げの延期の可能性を示唆した。

第13回米中通商協議への期待感が高まったことで、ドル円は106.41円まで上昇、米10年債利回りも1.54%台まで上昇しており、今後は、第13回米中通商協議に関連するヘッドラインに警戒しながらの取引となる。

リスクシナリオは、トランプ米大統領が「米国・香港政策法」を盾にして香港問題を米中通商協議の俎上に上げていること、中国政府が「反テロリズム法」を盾に武力鎮圧に乗り出す可能性を示唆していることで、米中通商協議が難航、決裂する可能性となる。

ドル円のテクニカル分析では、23日の大陰線に対して、26日は大陰線の実体部の中心値105.92円を上回る106.12円の引けとなる「切り込み線(切り返し線)」となったことで、買いシグナルとなった。しかし、23日の始値106.44円を上回る「抱き線(抱きの一本立ち)」の強い買いシグナルではないことで、本日と明日の3手連続陽線で106.44円を上回れば、「赤三兵」の買いだが、上回ることが出来なければ「下げ三法」の売りとなる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○08:50 ◇ 7月企業向けサービス価格指数（予想：前年比0.6%）

<海外>

○15:00 ☆ 4-6月期独国内総生産（GDP）改定値（季節調整済、予想：前期比▲0.1%／前年同期比0.4%）

○15:00 ☆ 4-6月期独GDP改定値（季節調整前、予想：前年同期比横ばい）

○15:45 ◇ 8月仏消費者信頼感指数（予想：102）

○15:45 ◇ 8月仏企業景況感指数（予想：104）

○21:00 ◎ デギンドス欧州中央銀行（ECB）副総裁、テンレイロ英中銀金融政策委員会（MPC）委員、講演

○22:00 ◇ 6月米住宅価格指数（予想：前月比0.2%）

◇ 4-6月期米住宅価格指数（予想：前期比0.2%）

○22:00 ◎ 6月米ケース・シラー住宅価格指数（予想：前年比2.5%）

○23:00 ◎ 8月米リッチモンド連銀製造業景気指数（予想：▲4）

○23:00 ◎ 8月米消費者信頼感指数（予想：130.0）

○28日02:00 ◎ 米財務省、2年債入札

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

26日 11:15 菅官房長官

「(通商交渉の大枠合意について)日米合意は極めて有益」
「米側に押し切られたということではない」

26日 11:53 劉鶴中国副首相

「中国は、米中両国に不利益となる貿易戦争に断固として反対する」
「冷静な交渉で通商摩擦の解決を望む」

26日 15:59 トランプ米大統領

「中国から通商協議の再開を望む旨の連絡があった」
「仏産ワインへの関税はデジタル課税を巡る協議次第」
「安倍首相は米国との協議に決着をつけようとしていることは確かだと感じる」
「日本との通商協議にはあらゆるカードがある」
「中国への追加関税の延期について可能性はある」
「我々は中国と最高水準の電話協議を行なった」
「貿易協議次第では米企業は中国に留まる」

26日 23:59

「中国は貿易合意を非常に望んでいる」
「米国に公平な中国とのみ取引をする」
「日本の自動車への関税は現時点では検討していない」
「EUとの貿易協定、合意は非常に近づいている」

26日 16:21 中国外務省

「米国による新たな関税に断固として反対」
「米国が新たな関税を発動すれば、中国はさらなる措置を講じる」
「先週末に中国が米国に電話したことを認識していない」

26日 17:17 独 ifo エコノミスト

「最新の指標結果には直近の貿易戦争の進行は反映されていない」
「自動車部門の企業景況感は改善、機械・化学や電器部門は悪化」

26日 21:01 カジミール・スロバキア中銀総裁

「私は来月の金融政策で動くことに傾いている」
「刺激策は幅広い合意のもとに行われるべき」

26日 23:44 マクロン仏大統領

「イランのロウハニ大統領がトランプ米大統領と会談すればイラン合意は可能」

「米中情勢は動いている」

27日 00:20 安倍晋三首相

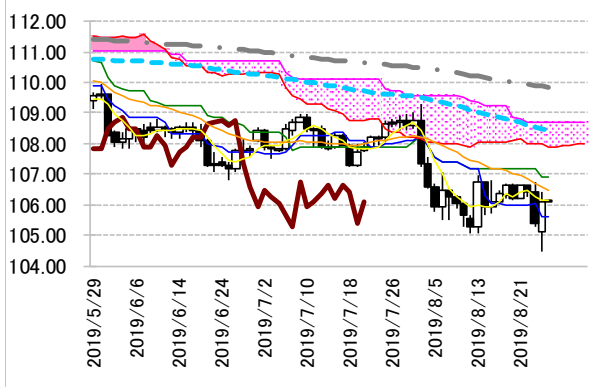
「(G7)朝鮮半島非核化取り組みで一致」
「イラン情勢、外交努力重要との認識を共有」
「下振れリスクにはG7が機動的に万全な対応を行う必要」
「米中協議の建設的進展を期待」
「(米中貿易問題)日本経済への影響を十分目配りして運営万全にしたい」

27日 01:36 ロウハニ・イラン大統領

「協議にオープン」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

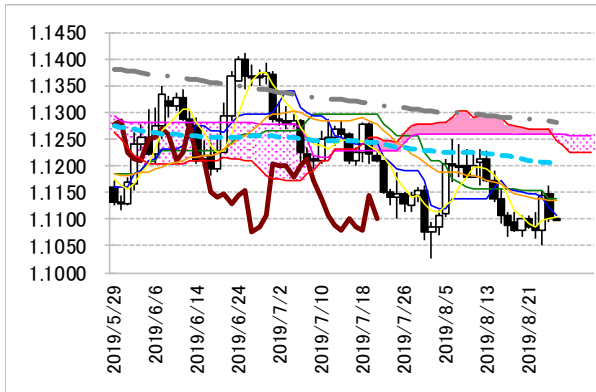


<ドル円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯中。しかし、23日の陰線に対して「切り込み線」で切り返しており、反発の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下回った場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	106.89(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	106.12
サポート 1	105.62(日足一目均衡表・転換線)
サポート 2	104.46(8/26 安値)

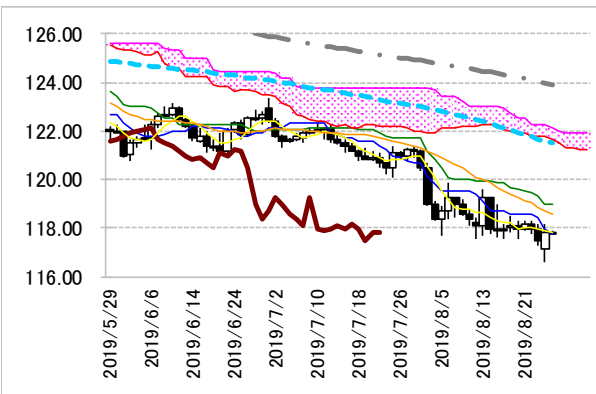


<ユーロドル＝雲の下限を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。「被せ線」により反落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線 1.1108 ドルを念頭に、雲の下限を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1248(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	1.1102
サポート 1	1.1052(8/23 安値)

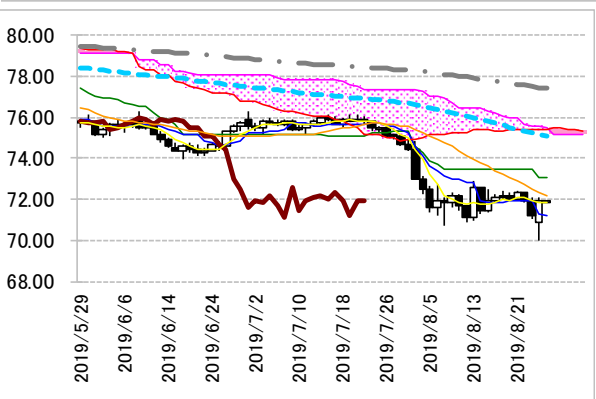


<ユーロ円＝26日安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。23日の陰線に対して切り込み線で切り返しており、反発の可能性が示唆されている。

本日は、26日安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同水準を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	118.98(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	117.83
サポート 1	116.57(8/26 安値)



<豪ドル円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。23日の陰線に対して切り込み線で切り返しており、反発の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	73.02(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	71.90
サポート 1	71.24(日足一目均衡表・転換線)

